

大阪府必要生計費試算調査の結果について

—新型コロナによる経済不況を乗り越えるためには、最低賃金を全国一律で1,500円以上に—

2022年2月4日 全大阪労働組合総連合

○現在の大阪の最低賃金は992円である。この金額では、フルタイムで働いたとしても月額16万円程度である。年収200万円にも届かず、ワーキング・プア状態である。

○今回、全大阪労働組合総連合（大阪労連）では、大阪で労働者がふつうに暮らすために必要な費用を科学的データにもとづいて明らかにするために必要生計費試算調査に取り組んだ。

○具体的には、主に大阪労連に加盟する各単産の労働者を対象に、生活のパターンを調べる「生活実態調査」及び持ち物をどれくらい所有しているのかを調べる「持ち物財調査」を実施し、それらの結果をもとにふつうの暮らしに必要な費用を一つひとつ丁寧に積み上げる「マーケット・バスケット方式」により算定した。

○調査には、約9500名が回答をしている（回収率約19.3%）。今回は、その中から大阪で住んでいるか、働いている一人暮らしの若者**634名**分のデータの分析結果を報告するものである。

○大阪市内で若者がふつうに一人暮らしをするためには、男性＝月額**244,951円**、女性＝月額**242,110円**（ともに税・社会保険料込み）が必要である。これは年額に換算すると約**300万円**となる。ちなみに、東京都（北区）でも同様の調査結果が公表されているが、男性＝月額249,642円、女性＝月額246,362円であった（ともに税・社会保険料込み）。

○この生計費で想定した「ふつうの暮らし」の内容は、以下のようなものである。

・東淀川区の25㎡の1Kのワンルームマンション・アパートに住み、家賃は管理料込みで48,000円（2階、エアコン付き）。通勤には公共交通機関を使い、月の交通費は約7,000円。

・冷蔵庫、炊飯器、洗濯機、掃除機などは、量販店で最低価格帯のものでそろえた。

・1か月の食費は、男性＝約44,000円、女性＝約35,000円。朝晩は家でしっかりと食べ、昼食についてはコンビニなどでお弁当を購入（1食あたり500円）。そのほか、月に2回、同僚や友人と飲み会・会食行っている（1回当たりの費用＝3,800円で、女性はこれにランチが1回追加される）。

・休日は家で休養していることが多い。1泊以上の旅行は年に2回で、その費用は年間7万円。月に4回は、恋人や友人たちと郊外のショッピングモールに行き、映画・ショッピングを楽しんでいる（1回2,000円で月に8,000円）。

○試算の月額を、賃金収入で得ようとする、**時給換算で男性＝1,409円、女性＝1,393円**（中央最低賃金審議会で用いる労働時間＝月173.8時間で除した場合）になるが、これはお盆もお正月もGWもない、非現実的な働き方である。ワーク・ライフ・バランスに配慮した労働時間で換算（月150労働時間）してみると、**男性で1,633円、女性で1,614円**となる。これまでに調査を行った都道府県の結果と大きな差はない。つまり、**最低賃金は全国一律で1,500円以上に引き上げなければならない**という結論となる。

○新型コロナウイルス感染症の第6波が拡大する状況下において、社会を支えているエッセンシャルワーカーは最低賃金近傍で働く割合が高い。彼ら彼女らの仕事に報いるためには、最低賃金はふつうに暮らせる水準にまで引き上げるべきである。貧困と密を減らすことが最大のコロナ対策であり、またデフレ経済から抜け出すためにも賃金の底上げを実現させなければならない。ここにおいて最も有効な政策が最低賃金改革である。

以上

生計費試算調査若年単身世帯総括表（メモ付き）

区分		大阪市東淀川区		備考
性別		男性	女性	25歳、大卒・勤続3年
消費支出		173,494	170,953	商品価格は原則最低価格。スーツや革靴など人前に使う物は最多価格帯。耐用年数から月額を割り出し。
	食費	43,727	35,097	男性＝昼16日コンビニ(500円)、5日は家から。女性＝朝・夕は家、昼12日は家から弁当。飲み会月2回平均4254円だが3800円で試算。男女差は必須カロリーにもよる
	住居費	48,000	48,000	価格帯の下から3割程度の物件
	水道・光熱	5,091	6,609	総務省・家計構造調査から推計
	家具・家事用品	3,780	3,693	所持率7割。7割以下でも所有が望ましい物。数は下から3割の所有数
	被服・履物	8,756	8,249	少ない方から3割の人が保有する物＋コートや背広などのクリーニング代
	保健医療	4,107	6,513	総務省・家計構造調査から推計
	交通・通信	13,469	12,567	通勤定期代（淡路－梅田3ヶ月÷3）＋自転車1台＋通信費は家計構造調査から推計
	教育費	0	0	若年単身者のため除外
	教養・娯楽	25,553	25,604	TV、PC、ゲーム機。3ヶ月2回の日帰り行楽。帰省含め年2回旅行。週1回買い物や趣味＋NHK受信料
	理美容費	3,807	7,067	ドライヤー、ブラシ、シャンプー、カミソリ、化粧品他。理髪(美容)料＝男性2ヶ月1回4000円・女性3ヶ月1回1万円
	身の回り品	588	938	カバン、腕時計、ハンカチなど
その他	16,616	16,616	こづかい1日200円、年1回冠婚葬祭4万円、忘年会など1回4000円4回、組合費2000円など。町内会費・歳暮などは0円	
非消費支出		54,157	54,157	給与22万円で試算
予備費		17,300	17,000	消費支出の1割を計上
必要生計費 (月額)	税抜	190,794	187,953	
	税込	244,951	242,110	
年額(税込)		2,939,412	2,905,320	
月150時間換算		1,633	1,614	
173.8時間換算		1,409	1,393	
2022年最低賃金額		992円		

生計費試算調査若年単身世帯総括表（詳細）

	男	女		男	女
消費支出	173,494	170,953	教養娯楽	25,553	25,604
食費	43,727	35,097	教養娯楽耐久財	4,570	4,570
家での食事	26,311	22,378	教養娯楽用品	925	976
外食・昼食	8,500	2,500	日帰り行楽	5,000	5,000
外食・会食	7,600	9,100	旅行	5,833	5,833
廃棄分	1,316	1,119	余暇費用	8,000	8,000
住居費	48,000	48,000	NHK受信料等	1,225	1,225
家賃	45,000	45,000	理美容費	3,807	7,067
管理料	3,000	3,000	理美容用品	1,807	3,734
光熱・水道	5,091	6,609	理美容サービス	2,000	3,333
家具・家事用品	3,780	3,693	身の回り用品	588	938
家事用耐久財	1,265	1,265	その他	16,616	16,616
冷暖房機器	124	124	自由裁量費	6,000	6,000
居間・寝室用家具	41	41	冠婚葬祭費	3,333	3,333
室内装備品	211	253	お中元・お歳暮	0	0
寝具類	560	560	プレゼント費用	3,583	3,583
家事雑貨	676	750	忘年会等	1,500	1,500
家事用消耗品	903	700	その他会費	0	0
被服・履物	8,756	8,249	組合費	2,200	2,200
被服・履物	8,389	7,791	非消費支出	54,157	54,157
洗濯代	367	458	所得税	7,247	7,247
保健医療費	4,107	6,513	住民税	10,025	10,025
保健医療費	4,107	6,513	社会保険料	36,885	36,885
交通・通信	13,469	12,567	予備費	17,300	17,000
交通費（定期代）	6,650	6,650	最低生計費	税等抜き月額	190,794
交通用具	541	541		税等込み月額	244,951
通信費	6,278	5,376		税等込み年額	2,939,412
教育	0	0		必要最低賃金額（173.8 時間換算）	1,409
				必要最低賃金額（150 時間換算）	1,633
				最低賃金額	992円（2022年）